

第6期宮前区区民会議第3回会議

第6期宮前区区民会議第3回会議

- 1 日 時 平成28年10月6日（木）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所4階大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 川田委員長、青柳副委員長、影山副委員長、佐藤部会長、荒川委員、老門（泰）委員、大久保委員、小田委員、葛西委員、黒澤委員、砂川委員、滝本委員、田辺委員、中村委員、山田委員、山部委員
 - (2) 参 与 渡辺参与、矢沢参与
 - (3) 事務局 野本区長、堤副区長、小佐野区民サービス部長、小林向丘出張所長、益子保健福祉センター所長、池田保健福祉センター副所長、松浦保健福祉センター担当部長、小林道路公園センター所長、吉越生涯学習支援課長、福嶺総務課長、小山企画課担当係長、米塚企画課担当係長
- 4 議 事
 - (1) 審議経過報告①（仮称）地域福祉部会
 - (2) 審議経過報告②（仮称）地域活性部会
 - (3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換
 - (4) その他
- 5 その他連絡事項
 - 第15回宮前区社会福祉大会
 - まじわーる de トーク
 - 宮前親子学級
 - 虹色おはなしの会
 - 地域の寺子屋コーディネーター養成講座
 - 公園でコミュニティづくり体験講座
 - 宮前区内認知症カフェ等のリスト 平成28年9月現在
- 6 会議の公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者数 1人

午後6時開会

司会（堤） それでは、定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。

本日の進行を務めます宮前区役所副区長の堤でございます。どうかよろしく願いいたします。恐縮でございますが、ここで着席をさせていただきます。

それでは、開催の前に事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせてい

ただいております。したがって、傍聴、報道機関等の取材を許可しておりますので御了承いただきたいと存じます。また、会議録の作成に当たり、速記者に同席をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。そして、本日の御発言についてですが、後日、議事録の確認をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページで掲載いたします。また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートへの御回答をいただきたいと思っております。

次に、本日の委員、参与の出欠状況等について御報告いたします。区民会議委員につきましては、大木委員、老門（聴）委員、椿委員、中里部会長から御欠席の連絡をいただいております。また、本日は渡辺参与に御出席をいただいております。なお、石田参与、添田参与、山田参与、飯田参与、持田参与からは事前に欠席される旨の御連絡をいただいております。

1 開会あいさつ

司会（堤） 続きまして、議事に先立ちまして、宮前区長の野本から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 皆様、こんばんは。お忙しい中、第3回の区民会議に御参加をいただきまして本当にありがとうございます。2つの専門部会がスタートいたしました前回の全体会からまだ2カ月ぐらしかたっておりませんが、この間、各部会では2回ずつ開催されて、白熱した議論が交わされたと同様に感じています。きょうはその検討経過をお話しいただけるということで、とても楽しみにして参りました。そういった意味では、この全体会は、ふだん2つの専門部会に分かれている委員の皆様方が直接に意見を交換する貴重な機会でもございます。本日も有意義な意見交換がなされますことを心より期待申し上げまして、一言挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願い申し上げます。

司会（堤） それでは、本日、皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきます。

まず表紙、本日の会議の次第、資料1といたしまして座席表、資料2が委員・参与・事務局名簿、そして資料3、第6期宮前区民会議の進行イメージ、資料4、審議経過報告資料。以上が本日の会議資料でございます。また、それとは別に委員の方々からいただいたイベントの告知等のチラシと市民館からのお知らせを配付してございます。また、委員の皆様にはマイナンバーの提出の依頼文もお配りしてございます。これらについては後ほど事務連絡の際に説明をさせていただきます。不足等はないでしょうか。——よろしいようですね。

それでは、これより第6期宮前区区民会議第3回全体会議を開催いたします。これからの進行は委員長にお願いいたします。川田委員長、よろしくお願いいたします。

2 議事

川田委員長 それでは、皆さん、改めましてこんばんは。第2回の全体会以降、2回専門部会が行われました。この間、部会長が決まりました、そして皆様方、いろいろな活動をされているんだな、いろいろな知識をいただきまして、皆さん思いがありますので、まとまるまでにはまだいっておりませんが、大変有意義な話し合いができたと思っております。

(1) 審議経過報告①（仮称）地域福祉部会

川田委員長 それではここで、部会長が決まりましたということで、専門部会から部会長が報告をさせていただきます。

まず、地域福祉部会の経過報告につきまして、本日は中里部会長が所用で欠席でございますので、かわりまして、青柳副委員長から御報告させていただきます。

青柳副委員長 皆様、こんばんは。また今回もよろしくお願いいたします。

それでは、今お話がありましたように地域福祉部会の今までの審議経過を発表させていただきます。（仮称）地域福祉部会の審議経過ということで、前回以降2回の部会を開催いたしました。冒頭、委員長から話がありましたように、本来ですと中里部会長から報告があるはずですが、本日は欠席ということで、私が代理として報告させていただきます。

では、シート1番、皆さんの手元にあります資料を見ながらお話しさせていただきます。

今回の発表は8月30日の1回目、9月16日の2回目ということで、部員一同審議をしてみました。スライドの3枚目にあります部会立ち上げ時に設定された審議対象テーマの例の範囲でございます。地域福祉、高齢者支援、子育てなど福祉関連のテーマのほか、防災や地域コミュニティなどがこの部会の審議対象として設定されました。そして、これらの課題に対し、世代交流、場・人づくり、人のつながりや支え合いによって課題解決へのアプローチを図ってまいりました。

4枚目を見ていただきますと、ここでは第1回会議の話題・キーワードをまとめております。第1回の会議では自由に意見交換しました。その中から話題やキーワードと思われるものを少し紹介させていただきます。まず話題になったのは、市民アンケートの「宮前区は定住意向が低い」という結果です。これは前回にも話がありました。我々、あれっと思ったものでございました。そして、その内容を部会で調べられ

る限りの範囲で調べてみましたら、転勤族が多く、仮の住まいであったり、交通利便性の課題が指摘されました。提案後の事業化のプロセスを見えるようにし、フィードバックすることの必要性も指摘されました。話題として多かったのは、地域コミュニティの形成、子どもの見守り、地域のたまり場などです。これらの話題の中で、見えにくい貧困などの課題、あるいは寺子屋事業や子ども食堂などの地域の取り組みも話題となりました。また、地域の危険な階段について改善を求める声も上がってきておりました。

次のシートに移ります。第2回目の会議では、さらにそこから話を進めてまいりました。共通意識として見えてきたのは「多世代と地域をつなぐ、地域との距離を縮める」ものです。背景としては、孤独化、地域の希薄化があります。地域に知り合いや友人がいなかったり、1人で留守番したり、家にこもりがちの子どもや高齢者の存在が指摘されました。こういうものを委員から身近に、また、深刻に報告されたという印象が非常にありました。また、お祭りなどの地域行事についても参加しなかったり、町内会や子ども会の参加人数が減ったり、そもそもそれらの行事や活動、資源を知らなかったり、触れる機会のない区民が多いのではないかという思いがありました。今、宮前区内はあちこちで秋祭りがなされて、皆さん方、地域でどんな様子であったか、おわかりかと思えますけれども、またこれも部会の中で、やはり人の集まりというか、そのような集う機会があっても、人が集まってくるところは少ないのではないかという話もありました。また、解決の方向性としては、居場所づくり、地域の人材による学習支援、貧困から来る負の連鎖の防止などが挙げられました。

次のシートをごらんください。さまざまな既存の取り組みや場も話題になりました。課題の解決の方向性の案として出たのは、まず「地域の縁側」です。入りやすい地域への導入、相談や情報提供の話づくりをイメージしております。また次に、地域の人材の活用です。多世代交流を通じ、お互いをみんなで見守り、育てていく視点でございます。最後に、地域の活動や行事の周知・広報です。いろいろな活動をしていると、そういうものを行っているという広報の効果が余り見られないのかもわからない、それでは人がどうしても参加できないのではないのかなというようなお話が委員の間でもありました。部会の中でも、白幡神社、有馬神明社のおみこしなど宮前区の地域のすばらしい伝統文化や資源が話題になり、それらをもっと知ってもらいたいという声も上がっています。今、話をしましたこの2カ所にとどまらず、宮前区内には非常に有名な名の通った由緒ある、歴史のある寺院だとか場所があります。そういうものを広く周知して、それが多くの人に行き渡り、また、みんなで集えるようなことになったらすばらしいのではないかという意見が出てまいりました。

また、既存の取り組みや場も話題となったということです。地域の人材を生かした学習支援である寺子屋事業は世代交流にもなっております。これも寺子屋事業という

ことで、近くの小学校なんかでは地域の支援されている方々とそこを利用する児童たちの集まりの場となって、非常に有効的な活用がされているのではないかという意見もありましたけれども、まだまだその利用効果というんですか、また、波及効果というんですか、もっともっと広めたい、違った用途を持ちながら活用されたらすばらしい活動になるのではないかという案も委員の中から出てまいりました。また、こども文化センターについては、もっと地域の多様な活動・交流の場として生かせるのではないかという意見も出てまいりました。こども文化センターはそれぞれの学校区で区内に何カ所かありますけれども、やはり委員の中から、まだまだその利用方法というんですか、効率のよい、あるいは効果を高められるような利用ができないかという話も出てまいりました。

次のシートをごらんください。ここでは学校や職場、家庭に次ぐ第3の地域の大人との関係、第3の居場所が地域にできればよいのではないかという意見も出てまいりました。これは委員の中から、人の集まる場をターゲットにした話が非常に活発に出てまいりました。

また最後に、話題になった事例を2つ紹介させていただきます。このシートの中にあります事例ということで、民間交番セーフティボックスサルビアと学びのポイントラリーというのは、委員の中から情報を集めてきていただきまして、部会の中でこうしているよという話で報告しながら、それは我々に置きかえてみたらどうなのだろうというような、それを1つの例にとりながら活発な意見交換も出てまいりました。これで共通されていることは、地域ボランティアが運営するもので、地域への導入、案内になっていると両方の事例から結論づいたものがありました。

もう1つの学びのポイントラリーも、委員が提供され、話題となった提案でございます。東京大学の市川教授が考案した地域の教育力を生かしながら学力、人間力を伸ばす仕組みであります。学校と連携して取り組むことにより、子どもたちのやる気を引き出したり、地域の諸団体と調整・連携することで、地域の現場で地域の人との触れ合いも進んでいく仕組みでございます。第5期区民会議の提案で宮前区の地域資源の謎解きを地域の子どもの学習用資料としてまとめた「みやまえハテナノタネ」を活用して、この取り組みができるのではというような意見が委員の中から出てまいりました。こうした取り組み事例を参考にしながら、多世代と地域をつなぐ、地域との距離を縮めるにはどうすればよいかということを考えて今後の話し合いを進めていきたいと思っております。

ここに第5期区民会議ということで、5期で活動された方はおわかりと思いますけれども、今話があった実物を持ってきて、見てもらったほうがいいなと思ひまして。これは前期、魅力探訪部会の葛西さんが中心にいろいろ動いていただきながら、すばらしいこういうものができ上がっております。事実これは、ことしの夏休みですか。

宮崎小学校に担当の職員の方が持参して、実際に使っていたという報告も受けておりますので、今の話の最後にありましたようにこういうものを活用して、先ほどの東京大学の先生のお話のような地域と児童生徒、大人という1つの形でこれが活用されるような発展性を秘めているのではないかという話が再度ありました。

ちょっと長くなりましたけれども、報告させていただきました。どうもありがとうございました。

(2) 審議経過報告② (仮称) 地域活性部会

川田委員長 それでは続きまして、地域活性部会、部会長となりました佐藤さんよりお願いいたします。

佐藤部会長 それでは(仮称)地域活性部会なんですけれども、審議経過を御報告させていただきます。

最初の部会になりました8月29日に開催された第1回部会で、まず互選で部会長を選びまして、委員の皆さんからの推薦をいただいて、私、佐藤が部会長を僭越ながら務めさせていただくことになりました。皆様、どうかよろしく願いいたします。また、9月9日に第2回の部会を開催いたしまして、部会で扱う地域課題、審議テーマについて部会委員で意見交換いたしました。

シートの10番です。部会立ち上げ時に設定された審議対象テーマの例、範囲をここに示してあります。交通・住環境など都市基盤となるインフラ、ハードの話題から、魅力発信、産業振興、緑などの話題、そして、過去の検証や中長期的な課題の解決方法などがこの部会の審議対象として設定されておりました。

次が資料の11番です。第1回の会議では、まず自由に意見交換をいたしまして、その中の話題やキーワードと思われるものを紹介させていただきます。まず、農や緑に関する話題が多く出ました。宮前区の特徴である豊富な緑、あと農地を今後も長く保全していく方法でありますとか、農産物の地域活用やブランド化などの話題が出ました。宮前区の魅力的な資源に区民に親しんでいただいたり、出かけていただくための環境に関する意見も出てきました。散歩コースとか公衆トイレの整備なんかの話題も出ました。

これらの場として、空き家であるとか公園の活用、地域管理について、結構事例を踏まえた御意見が多く出ました。長年の課題である地域交通なども話題になりました。福祉有償輸送やバス乗りかえチケット、タクシー定期券などの話題が出ました。また、過去の検討をより生かしていくための情報共有や取り組みの検証について討議を希望するという意見も出ました。過去にやったことなんだけれども、まだ生かし切れていない、あるいは途中になってしまっている、せっかくやったのにちょっと置いていかれているようなテーマがあるのではないかという意見が結構出ました。

「産業振興」を中心に据えてみると、さまざまなテーマが包括的に扱えるのではないかという意見も出ました。ちなみになんですけれども、この「『産業振興』を中心に」というのは僕が言ったことなんですけれども、正直な話、これに対しては「産業振興」という言葉を使うのはちょっとかたいのではないかとかいう反対の意見も出ていますので、ここはもうちょっと話し合いを改めてしていく必要もあるのかなと思っております。

魅力的なお店や働く場、区内の産業を充実させることによって、定住の環境や魅力スポットへの交通アクセスなどの充実にもつながっていくのではというのが産業振興を中心というふうに思って出てきた話題となります。ここまでが資料11番。

今度はシート12番、第2回の次の会議でさらに話を進めました。共通意識として何となく見えてきたのが「人と人のつながりを強化することによる地域活性化」というのがいいのではないかという共通意識が何となく出てきたと。主なターゲットとして、仮に地域で商売をしている人を想定してみると、話題が多かった農家に限らず、その地域の商店とか、個人事業主であるとか、ここでも出てきたサンプルでは芸術家さんなども含めたイメージでとりあえずくくってみました。まず、これら商売をしている人同士のつながり・出会いの機会の創出を図ることによって、新たなコラボレーションやビジネスチャンスや地域雇用、地域のにぎわいなどを生み出せないかというふうに考えてのことです。

もう1つが商売をしている人と生活者である区民との出会い・つながりですね。イベントなどの単発なものもいいのですが、生活の中での交流、触れ合いが進むのが理想だと思いますということです。例えば宮前産のすばらしさを体験や交流を通じて知ってもらって、親しんでもらうことで、そのブランド化や魅力の認知や発信につながることを目指そうかという考え方です。また、これらを検討していく上で、ぜひ若い世代、これまで地域とかかわりの薄かった新たな層を取り込みたいとの意見が出ております。ここまでが資料の12番です。

今度は資料の13番、具体的な取り組みの方向性について上がった話題を御紹介しておきます。まず、前提として、生活者である区民の視点から、生活の中で触れたり、体験できるような取り組みを目指すイメージがあります。さっき僕が言い出した「産業振興」というテーマで取り上げると、どうしても商売のほうに偏ってしまうので、やっぱり基本の視点は生活者なのではないかというイメージです。1つ例として委員さんのお話し合いの中で出てきたのは、^{いち}市の創出です。ジャンルに縛られずに「ごった煮」のにぎやかな場で、収益や出会いを意識した場をイメージしております。最終的には地域公園など地域レベルでの区内各所で展開されていくのが理想です。参考事例として各所の産業市、高津区の「さんの市」などが挙げられました。

もう1つは農を身近なものとするための取り組みができないかなということです。

区民に農業に触れていただいて、身近に感じていただく方向性で考えてみると。例えば直売所マップであるとか、農家巡りウォーキング、C級グルメなど既に区内で進められている取り組みもありまして、JAさんとか商店街もそれぞれの産業振興を進めているところなんですけど、何か生活レベルで新しい提案ができないかなと方向としては考えております。これらの取り組みの場について、公園、カフェ、農地、空き家、空き店舗などが候補として挙げられました。これもお話し合いの中で1つの情報として挙げていただいたのは、東京都豊島区の南池袋で公園内にカフェができて、その収益が結構上がっていて、地域に還元されているという例が出まして、こういう事例も非常に参考になるなと思います。ここまでが13番です。

次、最後が資料14番、これらの取り組みの効果を高め、継続性を持たせるには、運営の自立採算を目指すことが重要なのではないかという意見が出ました。というのは、こういう公でやるような取り組みって、結局どうしても無償ボランティアという話が出てきやすいんです。もちろんそれは尊いことなんですけれども、無償ボランティアに余り頼り過ぎずに、担い手に対してちゃんと一定の対価を支払える仕組みを目指すことで参加に向けたやりがいづくりや継続性のある体制づくりが可能だという意見です。そのほうが健全であろう、やりたがる人も出てくるであろうということです。地域交通、例えば福祉有償輸送などについてもこの点が重要であって、よりよい運営手法を模索するという声が出ておりました。そのための仕組みとして有償ボランティアであるとか、また、会費制とか、ファンドとかの活用なども話題に出ました。

最後に、取り組み提案により、魅力的な区内の商売と日常的につながった住みやすい宮前区、コミュニティや産業の活性につながればという方向性で考えながら審議をしてきたところでございます。御報告としては以上になります。

個人的におもしろいなと思ったのは、もともとこちらの部会、地域活性部会で扱おうとしていた、今もしているんですけども、魅力発信でどちらかというと、神社仏閣をもうちょっと知らせていこうみたいな話題が出ていたんですけども、さっき青柳副委員長の報告にもありました地域福祉部会でもそういう話題が出たというのは非常におもしろかったですという感想でございます。

以上、御報告でございました。ありがとうございました。

(3) 部会審議内容についての質疑応答・意見交換

川田委員長 それぞれの部会で多世代にかかわる人たちが集まっておりますので、まず、その情報交換とそれに対しての問題点とかが大変多く出ました。そして、印象深かったことは、両部会ともやはり子どもの話、子どもの問題が出ていたのが非常に印象深かったです。どうしても高齢者寄りになってしまったりするんですけども、まさに子どもから高齢者まで、どなたでもがかかわってくる、そんなテーマとしたいなとい

うことで方向的には進んでいるのではないかなと思います。

そして今、両部会長からお話、報告をしていただきましたけれども、ただいま参加していただいている委員の方たち、これからテーマを絞っていきますので、またこの意見交換という時間も設けたいと思います。

まず、地域福祉部会からでよいでしょうか。今、報告をしていただきましたけれども、それにつきまして何か補足することでもいいですし、また新たに何か思いつくことがあるようでしたら、この場で意見を述べていただければと思います。急で申しわけございません。それでは、中村委員からお願いいたします。

中村委員 こんばんは。共通する話題でお祭りのこととか、出ておりました。たまたま私は馬絹でして、古いしきたりがありまして、講中とかがありまして、順番で毎年、年番というのがあるんですね。たまたま今年が私の番なので、馬絹のお祭りは14日、15日、後片づけがあって、3日間縛られるわけなんです。家族が少ない家族構成ですの、14日は朝の8時半から飾る花等をつくったり、宵宮ですからお祝いも持ってきますので、それを書いて境内に張っていくんです。15日は息子が出て、私は馬絹の中でもお宮に近いものですから、宮本という字名なんです。そこで^{かみなかしも}上中下と分かれまして、うちのほうが下ですので、夜の部になりますから、夜、芝居だの、唄だの、いろいろやるんです。その人たちの接待を、本来でしたら私は書いたりする役なんですけれども、3人しかいなくなると——不幸のあったおうちは出られないので、息子に出てもらって、私も夜の部をやって、片づけをしたら11時ごろになるんですね。また翌日も朝8時ごろから行きまして、後片づけとかをする。そういう古いしきたりあるところなんですけれども、それを私たちの地域ではスムーズに、何のトラブルもなく行っております。境内で物すごい大きなおみこしを見るということは、今の時代、なかなかないと思うんです。私なんか子どものころの住まいは川崎区ですから、稲毛神社というところがありまして、そこで物すごい大きなあれだったんですけれども、そういうしきたりのお祭りの行事を地域の子どもたちにぜひ見てもらいたいかなと思います。古いしきたりなので、徐々に徐々に消えていくような感じの日本の社会だと思うんですが、うちのほうの馬絹というところは順当に回っていくから、私は、大変ですけれども、お当番として参加させてもらいたいかなと思います。両方の課題でちょっとよかったかなと思いました。

そういうわけで、以上です。

砂川委員 遅くなって済みません。

私、いつも感じていることですが、馬絹には馬絹神社がございます。その上に古墳があるんですよ。皆さん、夜、あれを見た方は御存じだと思うんですけど、せつかくの有名な古墳が、夜、通ると、薄暗くて怖いんですよ。前は住宅街ですから街路灯はありますけれども、夜の9時ごろ歩いて、のぞくと、奥にある白い石がお化

けに見えるんですよ、その石が。本当に怖い。ああいう非常に大事な宮前区の観光遺産をもう少し明るくして、区長は安心安全なまちづくりとおっしゃるのだけれども、宮前区にはそういう誇れるすばらしい古墳があるということをいろいろな意味でわかっているわけですから。夜でも、例えばアベックが散歩がてら歩いて、ああ、ここが馬絹の古墳だなど。そうやって、見る環境づくりといいますか、歩くと本当に怖いですよ。もう左側を見るのが嫌になってしまいますよ。観光のまち・かわさきであるのならば、やはり古墳も馬絹の大事な大事な観光資源だと思いますので、ぜひともその辺は検討して、本当に行ってみてください。暗いから、怖いから。神社の林と暗くなっていて、特に雨の日なんかは怖いですよ。瞬間的に怖いんです。あそこは誰も行けないと思いますよ。

そういうことで、まだいろいろありますけれども、失礼します。

滝本委員 よく地域のことで、担当、役員とかが持ち回りで毎年毎年回ってくると、限られた時間の中で、仕事を持ったり、家族の問題があつたりするときに、それを負ってしまうと負担だなと感じると、なるべく避けたいとか、なるべく前年と変えたことはしたくないというのも自然だと思うんですけれども、人って、自分はことしは100%動けるけれども、来年は50%だとか、1人だと30%しかできないけれども、3人いれば何とか、30%足す30%足す30%が自然に100%になるとか、そのようなものがあることに気づいたときに、やってみようかなと思うのが私の個人的な経験であります。なので、人手が不足というのは、逆に素人でも、ちょっと助けがあれば参加してみようという気持ちにつながったりですとか、1回やったら、自分は初めての年はとても大変だったけれども、三、四年たったら誰かを手伝おうという気持ちになれることがあるので、行事とか、もし地域のボランティアでやったことが将来の若者にとって仕事をするときのヒントになるとか、逆に大人にとっても、大人だけで頑張っていて、会議で決めたことよりも、その大人の中に子どもとか、中学生とかが入ったときというのは、逆に大人の意見を活性化させてくれたり、大人の姿勢を正してくれたりするのが若者の力だと思うので、忙しい若者とか忙しい世代が何とかすき間を持って参加してもいいなとか、勉強も大事だけれども、実は遊びとか、そういう地域の行事に参加することが勉強の時間を削ったのではなくて、2年、3年たって熟成したときに勉強の源というか、ハテナノタネではないですけども、そのようになる仕掛けができればいいなと思っています。

大久保委員 私は地域福祉部会に出ておりますが、2つの部会の発表を聞いていて非常に近いものを感じました。皆さんも多分同じだと思うんですが、例えば地域のイベントを考えたときに、当然地域活性部会のほうはイベントを実際に行う主体に近い視点で物をごらんになり、お考えになり、考えをまとめておられる。地域福祉部会はどちらかという、客体に近い視点なのかなと思っています。結局のところ、目指すものは

ほぼ同じようなものを、それぞれの立場であるとか、視点を変えることでどのようにつないでいくのかということが、今回こうやって2つの部会を分けることで逆によく見えてきているような気がして、すごく心強く思いました。それが1点です。

もう1点は、地域福祉部会の一番最後のチャート、7枚目のチャートになるんですが、ここに第3の大人・第3の居場所づくりとございます。このワーディングは私が出したんですけれども、話の流れからいくと、何となく子どもに非常に視点が偏っているように見えるかもしれませんが、実はそういうことではなくて、子どもにとってはもちろん、地域の大人というのが自分の親や学校の先生に次ぐ第3の大人になる。場所も家庭や学校以外に第3の居場所づくりということに当然なるんですが、これは高齢者にとっても同じような意味合いを持っておりまして、自分の家庭と会社とは違う人とのつき合い、あるいは自分の居場所という第3の大人、第3の居場所づくりということなので、結局これも言ってみれば、多世代が交流しながら、高齢者のことも、若年者、あるいは弱い人たちのことも考える、地域包括ケアの考え方そのものなんだろーと思っっています。そういったものを2つの部会のそれぞれの視点の中からまとめ上げられていくととてもいいなと思っっています。

葛西委員 済みません、おくれて来たので、最初の発表をちゃんと聞いていなかったのですけれども、部会の中で話し合った中身はやはり子どもたちのことで、子どもたちの居場所とか子どもたちの貧困の問題で、そこの中で学習の支援が大切だろうという話がかかり出てきました。貧困のために学習ができないということで、負の連鎖を起こすとかということもかなり話題に上ったんですけれども、そういう子たちだけでなく、全体として考えたときに学びのポイントラリーみたいな、いろいろな子がかかわれるような学習支援というものを考えてみないかという話に最終的になったような気がするんです。

あと居場所づくりというので、日中、夜間という第2回会議の話題の中の1つにあったんですけれども、個人的に平のこども文化センターの館長さんとお話ししたんですけれども、夜は子どもたちは来ているんですかという話をしたら、卓球とかには来ていますよと。どういう子たちが来ているんですかと言ったら、やはり小学校のときとかからこ文に頻繁に遊びに来ている子たちが、中学生になったり、高校生になったりしても遊びに来ると言っていたんですね。ということは、まずは小学生のとき、それ以前にこ文とか居場所を十分に使えるような情報が子どもたちに流れているといいのかなと個人的にこの間思ったんですけれども、追加ということではないんですが、そのような感じですよ。

川田委員長 補足ですが、ありがとうございました。

小田委員 この間の日曜日、10月2日なんですけれども、後から出たプリント、宮前区の認知症カフェ等のリストの中にあります9番、長尾いきいきサロンに依頼を受けて、

ボランティアに入って活動してきたんです。このときに山本俊子さんが言われたんですけれども、長尾住宅は1人で住んでいる方などがいらして、このようないきいきサロン、食事会などにも参加してもらいたいということで、迎えに行ったり、声をかけたりしているんですけれども、私はいいとか、行かないとか言って、やっぱり積極的に外に出ない方がいらしている。独居でこもりがちな方たちをどのようにしたらその場に連れ出すことができるんだろうか。そういった悩みを言われていたんですけれども、今、葛西さんが言われたこととちょっと関連するんですけれども、地域福祉部会で第6期というのは、私たちの部会は意外と子どもたちに支援をしよう、したいというものと、高齢の方と子どもたちをつなぐ支援が何かできるのではないかといった話が幾らか中心になっているかなと思います。このプリントの第1回会議の話題・キーワードのところで、子どもたちと、できれば高齢の方たち。お孫さんに当たるくらいの年齢の人と高齢の方たちでかかわって、何かできたらいいだろうなという中で、見えにくい貧困、子どもの見守り、地域のたまり場、子ども食堂、あと空き家活用というのはそちらの佐藤さんたちの部会でもありましたけれども、どんなかかわりになるのか、具体的なところはまだまだこれからだと思うんですけれども、その下の子ども食堂についてなんです。

私、ちょっとした情報がありまして、宮前区にかつて長いこと住んでいて、ボランティア活動をやっていた人が、家庭の事情で今、東京都江戸川区に住んでいるんですね。そちらでもボランティア活動をやっている人なんですけれども、この間、電話がありまして、話をしましたら、災害の備蓄品をいろいろなところに保管していますよね。学校だったら学校の備蓄庫に、私も見たことがあるんですけれども、毛布とか、水とか、簡易食品などがあって、多分区役所関係でも、社協の関係でも、そういったところでは災害備蓄品をたくさん保管していると思うんです。食べ物などもあると思うんですけれども、聞いた話では東京のあるところでNPO法人を設立していて、期限切れになった災害備蓄品の食料を放出していて、それこそ子ども食堂とか、高齢の方たちとか、貧困家庭にいる子どもたちや、また、施設などで支援を要するような、大人も入るんだと思うんですけれども、備蓄しているもので期限切れになったものをもらい受けて、そういったところに届け——車でもらいにそこまで出かけるらしいんです。あと、テント村みたいな炊き出しなどもやったり、そういった活動をしている大もとが東京にあって、期限切れのものを欲しいという人があちこち、いろいろな地方から車でもらいに行っているといった話を聞いたんです。

それも簡単にすぐ、はい、上げますよって上げるわけではなくて、やはり登録をするとか、団体とかグループがはっきりしないと……。もらって、それを持ち帰って売ったり、近所に分けたりとか、そのような違う使い方をしたらとてもまずいので、そのあたりはちゃんと何かあるらしいんですけれども、そのようなものを行っている

ころがありますよ。私もボランティア活動をグループでやっているんですけども、あなたのところなんかはそんなものはどうですかと言われても、とてもとてと、そんなところまで手が出ません。でも、そういうことを情報としてお知らせする機会はありますので、お話ししてみますと言ったんですけども、そういうことがありました。今、子ども食堂というのがあったので、ああ、こういうこともできるんだなと思いました。

川田委員長 地域福祉部会の皆さんに御発言いただきましたけれども、中村委員、馬絹地区のほうで空き家を使ったサロンをというお話を伺ったんですが、ちょっと御説明いただけますか。

中村委員 うちの第3地区社協で民生委員をしている方なんですけれども、自分が住んでいる前の実家は隣が歯医者さんで、その親なんですけれども、荻窪のほうにいらっしゃるのでなかなか来られないということで、ほぼ空き家状態なんです。詳しいことはよくわからないんですけども、大塚町会で1人100円で何か開く。それをどうも第3地区社協で聞いたんでしょね。ということで、もとうちの民生委員だった方がトップになりまして、そこをお借りして、高齢者、誰でも寄れるようなサロンをつくり上げるらしいという情報が入ってきましたので、その委員さんに私が、ちょっと余計なことかなと思うんですけども、3年なり4年なると、いずれ壊してマンションとかにするあれがあるんでしょから、最初から水道、電気、税金、そういうものをよく考えてしたほうがいいわよ。なあなあ感じでやってしまっ、いざ、壊して、自分のあれにしようと思ったときに、感情に流されて、どうにもならなくなったら困りますよというようなアドバイスをついこの間したばかりなんですけれども、どうも宮前第3地区社協では大塚で立ち上げてやるそうです。

その前から地区社協では私に、会長、何か空き家はないですか、空き家がないですかなんて言っていて、たまたまうちのアパートもあいていたから、どうかなと思ったけれども、うちはだめ、貸したほうが良いと思っていて、話には乗らなかったんです。たまたまそういうお話が入ってきて、詳しいことはよくわかりません。どのような形で、税金もありますし、電気やら、いろいろあります。

ただ、我々民生委員が今、被災者の国家公務員のところでひまわりサロンというあれで支援しております、そこのサロンの電気代、固定資産税なんかはどうなっているんですかとやっている方に聞いたら、被災者のところには日赤だのいろいろなところから資金が入っておりますので、それを使って固定資産税のあれも払っているそうです。

川田委員長 負担金というのがまず出てくると思いますので、そちらのほう、情報が入りましたら、また地域福祉部会のときにでも教えていただければと思います。ありがとうございます。

それでは続きまして、地域活性部会から御発言いただきたいと思います。老門（泰）委員からお願いします。

老門（泰）委員 地域活性部会というのは（仮称）がついておりまして、中身が非常に多岐にわたっておりまして、私の中ではこれをコントロールできないんですけれども、先ほど来から出ているカフェに絡んで、実を言うと、土橋カフェというのは月に1回しかやっていないものですから、地域活性部会の中でも空き家というのをちょっと出したのは、要するにこれを週に5回とか、そういうことができる場として空き家の活用ができないかなという視点でそういう話を出したんですけれども、多分あうんだと思うんですが、介護センターがあって、麻生区のマンションの一角で、これはデイサービスなんですけれども、デイサービスの一角で毎日カフェ的なものをしてあって、そこには子どもさんも結構集まってくる。それから、週に1回、夜間もやって、ちょっとお酒も飲めるような場所があるらしいんですよ。1回見学に行こうとしているんですけれども、なかなかそのチャンスがないんですが、そういう事例があったりして、ともかくふらっと気軽に立ち寄れる場所がもっとできないものかなというのが、いつも町内会の中でも考えていることでございます。

うちの家内もこの委員なんですけれども、きょう欠席したのは、たまたまきょうが土橋神社のお祭りなんです。夜店を出してしまして、子ども会と一緒にお店を出してございまして、結構人が集まるんですけれども、土橋神社の奥さんでカトウさんという人は白幡八幡の御出身でして、この前聞いたら、いや、白幡八幡というのは大変なお祭りなんだよ、神主さんだけでも七、八人見えて、いろいろなことがあるんだよって初めて知りました。だから、広報的にこの神社のお祭りがいつあるよとか、いろいろ出るんですけれども、その中身がアピールされていないので、白幡八幡では禰宜舞がちらと小さく出ていますけれども、それだけだとぴんとこないし、集客力もないのではないかな。そういう意味で、もっと大々的にそういうのをアピールする場面があってもいいのかなと思ったりしております。

以上、まとまりがありませんけれども、よろしく申し上げます。

山田委員 今度、地域活性部会で活動させていただくことになりました。

まず最初に、資料の10にその他ということで、過去の検証とか、今まで積み残していたものをうまく分析して持っていけばというようなすばらしいアイデアもあったんですけれども、残念ながら、きょう皆さんごらんになっている資料に載っているのは、一生懸命やろうとした気持ちはわかるけれども、非常に現実的なものになってしまったなというのを感じられていると思うんです。やはりこの辺は難しい取り上げだったかなと感じています。

まず、中で論議があったのは、佐藤部会長、かなり若い、すばらしい部会長さんになっていただいて、大いに期待できて、例の産業振興なんていうのもすばらしい、こ

れからどう持っていくのか、持っていく方によっては素晴らしい味が出てくるのではないかと考えています。ですけれども、我々古い人間の論理は、残念ながらきょうのテーマに載っている宮前区の特徴というのは、やっぱり緑というのが1つの大きなポイントではないか、それに近いところにある農の問題を大いに取り上げていくべきではないかというような議論が割に多かったんです、正直言うと。実際にそのときに配られた農業の関係、新しいパンフレットなんかでも、この中に載っているところでもう既に廃業されているようなところが出ているらしいという話なんかも出て、特に農の問題を取り上げるのはこれから非常に難しいのではないかと感じているところに、部会長から産業振興。説明ありましたけれども、産業という表現は別として、例えば佐藤さんなんかは素晴らしいイラストでいい仕事をされているんですけれども、そういった文化をベースとした、ソフトをベースとした地域の活性化がこの中に表現されていると私としては考えています。

こういうテーマでこれから論議が始まるんですけれども、最終的には人間の活動ですね。ですから、さっきから話が出ていますように福祉部会と大いに相乗りの線も出てくるかと思うんですけれども、それは大変にいいことではないかと感じて、大いにこれから頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

黒澤委員 向丘地区自治会から推薦を受けて、区民会議の委員になっております黒澤でございます。

区民会議、ことしで3年目なんです。もう皆さんに御報告済みなんですけれども、なぜ地域活性部会のほうを選んだのかということなんですけれども、区民会議3年目になって、ああ、これはやってみたいなと思っていた当初の考え方というのは、3月までの5期の課題、申し送り事項というのがありまして、2年間やったけれども、小学生、中学生的なことしかできなかったもので、3年目の今度はもう高校から大学までいきたいなと。そんな考え方で、結構そこら辺を詰めてみたんですね。そんなお話もさせていただきました。

この地域活性部会を選んだのは、揺りかごから墓場までという自治会のこの中で、もう1つの地域福祉部会のいろいろなことが書いてございますけれども、こういうものについてはそれぞれの自治会が対応している、そして、それ相応にその自治会の方が、なるほど、この自治会はここまでやってくれているから、俺はよかったなというところ。このような感じというのは、私が見ている近隣の自治会の会長さんの意識と自治会員ではないかなという感じを持っています。そういう気持ちだけれども、今、世代間交流というところで空き家が多くなったり、お年寄りがマンションに移って、新しい2世代、3世代目となっております、うちの自治会。地域のほうに東京都から、あるいは横浜市から来る方にここを選んだらいいぞというふうな地域の魅力というんでしょうか、自治会の魅力というんでしょうか、そういうものはもうち

よっとソフトな面というよりか、かなり固定的な引き継いだ課題の中で探せないかと意識しておりまして、3回の会議の中でおもしろいなと感じたのは、先ほどもお話がありましたけれども、地域の魅力というところでの産業振興。これから農業が主体になるのか、どの程度、どのようにやるかということはこれから……。玄人はよくわかっているんでしょうけれども、そういうところで農業中心でも、何か呼び込めるような産業振興的なアイデアを出して、いけるということであると、地域を主体とした、自治会を主体とした考え方というんでしょうか、魅力があるぞと言えるものを地域の方々に発表できるような、発信できるような、そんなことで4回目あたりからもっとおもしろい突っ込んだアイデア、いろいろなお話ができればと期待しております。

田辺委員 本当は、きょうは正直ノーコメントなんですけれども、ノーコメントでお隣にマイクを渡すわけにもいかないの、何かしゃべらなければいけないかなと思っっているんですが、正直我々の地域活性部会はまだ2回しかやっていなくて、いろいろな話題は出たんですけれども、まだ余りまとまっていないというのが私の印象です。両方の部会を通じて感じることは、毎日新聞やテレビで出るような日本各地で起こっているような話題が宮前区でもあるのかなという認識ではいます。

私が今思っていることを言うと、こういう会議をやっていると、とにかく手段とか、方法とかのアイデア出しみたいな話になりがちです。そもそも課題の本質は何なのかというところが、バックグラウンドの異なる人たちが集まる場では話しにくいと思っっているんですね。例えば、いろいろなキーワードがこの紙を見ますとちりばめられています。世代交流とか、産業振興とか、魅力発信とか、いろいろキーワードはあるんですが、じゃ、なぜ世代交流をしなければいけないのか、なぜ魅力発信をしなければいけないのか、なぜ産業振興をしなければいけないのかという、そののところをもう少し掘り下げる必要があるのかなという気がします。

全然別の話をしますと、この会議が始まって最初のころ、宮前区のまちづくりは、市民活動団体が少なく見積もっても400、500あるとか、多分600以上ありそうだなみたいなことを私は申し上げましたけれども、実は最近実感として思っているのは、今は非常に衰えているというか、衰退してきています。30年ぐらい前にできた団体で、それこそいろいろなところで賞をもらったりとか、そういう団体もたくさんあるんですが、その人たちがもう大体80歳ぐらいになってきて、後継者がいる団体もあるんですけれども、おそらくそのまま終わってしまうような団体が多いんですね。考え方で割り切って、それはそれで1つの課題をある意味解決されて終わったので、いいのかなという気もしますけれども、活動の継承という問題が今、それぞれの活動をなさっている団体で非常に大きな問題になっています。おそらく、例えば今の70代、80代の方々の30代、40代のときと比べて、今の30代、40代の方々の生活環境といいますか、お仕事も含めてかなり厳しいのかなと。要するに自分の生活でいっぱいいっぱい、

まちのことなんかを考える余裕がないのかなと、すごく危惧しています。

そんな中で、宮前区のいろいろな年齢や、職業や、いろいろな立場の方々、できるだけ多くの方々がどうまちづくりに取り組むようにしたらいいのかというのは、私の属しているまちづくり協議会の課題でもあるんですけども、どうしたものかなと非常に悩んでいるところです。

まとまりのない話で済みません。

山部委員 前回、第2回部会を欠席しまして、地域活性部会の中身がはっきりわからないものですから、私がこの中でこういうことだと思いながらできる話をさせていただきます。

魅力発信ということで、特に今、宮前区というのは、初山のとんもり谷戸の整備、水沢の森も非常にきれいになっております。こういうものを発信していかないと、どこにどういうものがあるか。特にとんもり谷戸からずっと生田緑地へ行く道なんていうのは本当に素晴らしい。私もこの間、歩いてきたんですけども、素晴らしいな。東高根と同じように生田に行く道というのも非常に自然豊かで、人工的なものでなしに、自然を重視したつくりだなと感じております。ですから、そういうところ、宮前区にはこういうところがありますよということを皆様にお知らせしたい。そういうことを中心にやっていきたいと今は考えております。

よく話題に出るんですけども、過去の検証ということで、今までどんなことをやってきたか、はっきりわからないわけです。この間、欠席したときの資料をいただきました。みやまえ坂道ウォーク。私は大変素晴らしい冊子だなと思ひまして、中身も素晴らしいあれで、最後には坂道制覇を目指そうとあって、こういう素晴らしいものは今まで見たことがなかったものですから、どこに行けばこういうものを教えていただけるのかということもこれから、過去の検証ではないですけども、いろいろ調べて、結局全て、全部新しいものではないと思うんです。みんなどこかで関連していると思いますので、そういうことをこれからやっていきたいなと思っております。

取りとめのない話で申しわけございませんでした。よろしくどうぞ。

荒川委員 私はここ20年ちょっとボランティアばかりやってきて、熟知をしています。いろいろなお知り合いを財産にしているところなんですけれども、これを若い方につなげていくというのは、今の状態では無理ではないかなと思いますので、この間、フェイスブックにも書いたんですけども、駅前でした赤い羽根共同募金の募金運動は椅子に座った高齢の男女の方がお願いしますと言われていました。町会では私が班を回って、階段のある家を何軒も訪ねて募金に回りました。そういう現状で助け合いということは、若い方はだんだん関心も薄れる、そういう時間もなくなってくるのではないかなと思ひました。

そういうことで、協働のセミナーを受けたんですけども、その講師は地方行政の

職員から私学の教授になられた方でした。地方の協働事業の紹介をいろいろしてくださいまして、地方では、市民に稼いでもらって、税金を払えるようにするという後ろ盾の努力をしていると伺いました。ああ、そうなんだなと思って、私はみやまえ農の応援隊といたしまして、農地を何とか守りたく、お助け隊なんていうちょっと生意気なものをつくってしまったんですけれども、そのメンバーを募集するに当たっては、ただのボランティアでは嫌だということから、ボランティアで来ても、何のために、何の成果があってやるのかという会議から始めることになって、種まきをしなければいけないのに、会議をしているところではないのではないかと思っても、意思を共同理解させるためにはそういうことから始めなければいけないという現状です。

ある大型スーパーでは月に2回、勝手値（かってね）シートというのを配る日があって、朝の10時前からもう列をなしていただきに行くことになっていて、私もその中の1人なので。その中でもうコミュニティができるくらい顔なじみがそろっているという感じで、御夫婦で来ている方が多くて、幾ら割引になるかというのと、1枚に対して20円で、それが10枚つづりで200円ということ。本来は1シートしか使えないものを、何回も並んで3シートを確保、1日でそれを使い切らなければいけないので、考えてみたら、わずか600円のことで朝から並ぶという現状。20年ぐらい前からやっていたんです。平日にやっていて、以前は主婦だったんですけれども、それがもう一家で来ているような現状。朝から並ぶというそのエネルギーを何かに使えないのかなと思いつつも、自分も参加しているというおもしろさなんです。活動するには活動資金を稼がないと、赤い羽根も老老介護でなくて、老老会活動ということになりますし、活性化するためには佐藤さんのようなお若い方からの発案、宮前区にとっては産業振興ということも少し考えていかなければならないのではないかなと思いました。

また、農地が今度相続のために消えていくというニュースがまた入ってしまいました、ああ、ということで、持てる力を集めて何とかみんな農地を守っていく、里山づくりを……。市民健康の森づくりでは業者を抑えて、市民の力で土地を横につなげて、活動の場にしていったという話を伺ったりすると、農地もそういうことができなかな、守るのはみんなですりますから、いろいろな法律を使って相続税問題を何とかできないものかなと思います。もうボランティアだけに頼る時代ではなくなるのではないかなと。いろいろボランティアをしてみて、いいことはあったんですけれども、それを人につなげていく説得力には欠ける状態です。

どうもありがとうございました。

影山副委員長 私がちょっと感じていることで、私が地域活性部会で2回ほどお話しさせていただいた内容は、地域福祉との関連も多いなと感じました。皆さん方がきょうお話しされていた内容を見ても、言葉としてはいろいろなキーワードが出ていますけれども、根っこのところは1つすごいマグマのようなものがあるのかなと。これは私が

勝手に一個人として思っています。そのマグマというのは、これから宮前区でバトンタッチしていく人たち、これから別れる、出ていく、死んでしまうというか、あと10年、20年。20年もいくかどうかわからないですけども、そういう人たちのせめぎ合いみたいところを実は交通整理する必要があるのかなと、私は皆さん方の意見を聞いて思いました。その中で私は、ちょっと刺激的なことかもしれないけれども、2つだけ申し上げます。

1つは、皆さん方のお話の中で、自分でやれるかどうかというのを話の置き方として置いていらっしゃるのが気になります。自分でやれることは言うけれども、やれないことは言わないとか。これはわかりませんが、それでいいのかなと。というのは、自分ではやれないけれども、それはそれなりのノウハウを持っている人たちに委嘱すること、任せることだって、専門の方はたくさんいますので、そういった意味では、この会議の中では、生活者の視点の中でこれは大事ではないかなということを追いかけて言うことで、やれるかどうかとか、ちょっと何とかというのはいいのかな、それはちょっと置いておいていただいてもいいのかなというのが第1点です。

2つ目は、アイデア出しの中で、皆さん、すごくいろいろアイデアが出てきました。ところが、おもしろいことに共通なもので空き家というのがあるんですね。その空き家というのは、言ってしまうと拠点だと私は思っています、根拠。それは、今までの言葉で言えば公園も入るでしょう。今までのエリアで言えば農地が入ります。それに新しい動きとして、実は空き家というものが入ってきたのではないかなという認識で私はいます。

さあ、そのときに、じゃ、空き家の活用はどうしたらこうだということ、いろいろ事例を出してきたり、勉強はしますが、そこで私は、最初にちょっと申し上げたように、区長さんもいらっしゃるのだけれども、大胆に、例えば多世代交流ができる空き家の支援機構というものを立ち上げるような視点から考えると、そういうところがあるといいよねと。実際にそこには、公募で運営とかなんか、ノウハウを持っている人がたくさんいます。診断者も、専門家がたくさんいます。その人たちが今度は空き家を探してきて、診断して、それを転がしてマップづくりをして、ビジネスとして議論をする。

もう1つは、私なんか思うのは入る可能性のある人。私なんかもう少しで70歳になりそうなんだけれども、男の健康年齢というのは七十二、三歳ぐらいでもうピークなんだよね。それから後は寿命、もう10年で寝るようになるんです。つまりその健康寿命というものをいかに確保していくか、空き家でお互いに友達づくりか何かは一般の市民たちでどんどん入れるのではないかと。それは新しい支援機構の事業として——これは私の提案ですよ。別に皆さんが考える必要はあれだけども、私はそのようなことを少し考えて、これで今の地域活性部会も、地域福祉部会の中でも、1人で孤

独に耐える子育ての方も、独居の方も、少し背中を押してあげるようなものができればな。それは今までのカフェも使えます。カフェでもできなかったことがプラルアルファで入る。

以上です。切りがないので済みません。

川田委員長 ありがとうございます。影山副委員長がおっしゃった自分ではできないから言えない、言わないということ。私もよく言うんですけれども、自分でできないから、発言を控えようというのはだめだと。アイデアがあるんだったら、それを出しなさい、ほかの人ができるかもしれないし、いろいろなヒントになるかもしれないということがありますので、今、影山副委員長が言ったように、皆さん方も、自分ではできないかもしれないけれども、こういうアイデアがあるよということを今後伝えていただければと思います。

先ほど地域活性部会のほう、産業振興というお話が出てきましたけれども、産業振興って、私だからでしょうか、余りぴんどこないのがあったんですが、例えば小さいお子さんがいるから、お母さん方、外では働けないけれども、いろいろな技術を持っているという方たちもいらっしゃると思うんです。じゃ、その方たちがつくった作品を、公園でイベントがあった場合、そこで販売をする、そして利益を得る、これも産業振興なんですよなんていうお話をしたのがすごく頭に残っているんですけれども、今後、きょう出た御意見などを参考にしながら、また今度の第3回部会でお話を進めていただければと思います。

まだちょっとお時間があります。これは委員さんたちの意向ではございますが、行政から、区役所からいろいろな方がお見えになっております。ただ聞いているだけではなくて、今、委員の方たちから出た発言に対して、何かアドバイスなどのようなものがございましたら、お聞かせ願いたいなと思っております。お時間がありますので、全員に行き渡りますので、ちょっとお願いしたいなと思っております。急でよろしいでしょうか。

区長 はい、大丈夫です。

川田委員長 区長が大丈夫ですよと言っていますので、それでは、池田保健福祉センター副所長からよろしく願いいたします。

保健福祉センター副所長 池田でございます。座らせていただいてよろしいでしょうか。

——今1時間半程度ですか。委員の皆さん方の御意見を聞かせていただきまして、私も福祉行政を結構長いことやっているんですけれども、今、皆さん言われているような最後のキーワードになっていた空き家。私は保育事業にずっと携わっていた時期もありまして、空き家というキーワードはもう十何年前からキーワードとしては結構使われていたりということがありました。ただ、行政だけの力、あるいは国、県、市を含めて、そこだけで空き家を活用して何かやっというのはなかなか難しいとい

うのが私の中の経験で、なかなか成功できなかったということです。今回、皆さん、宮前区民の方からまたこういうお話をいただいて、一緒にできるとか、また、それがどのような形で成立するというか、なし遂げられるというのはちょっと希望の光が再燃したというか、皆さんのこれからの検討に期待を持たせていただきたい、私も一緒に考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

道路公園センター所長 道路公園センターの小林でございます。着座してお話をさせていただきますと思います。

我々道路公園センターは、名前のとおり、道路と公園と水路とか河川の維持管理をやっている部署でございます。きょう地域福祉部会さんと地域活性部会さんでキーワード出しをしていただいた中で、道路公園センターとして一緒に考えることができるのかな、あるいは御提案をいただけるのかなという気になったキーワードといたしましては、1つ、地域福祉部会さんでは地域の危険な階段というキーワードをいただいております。宮前区というのは非常に高低差というか、アップダウンがあって、坂道が多いということで、区内にはかなりあちらこちらに階段があるかと思っておりますけれども、その中で、多分危険な階段ということですから、手すりがないような階段であるとか、あるいは階段の段差が歩きづらいとか、維持管理がちゃんとなっていないとか、そのような階段のことがもしかしたらテーマの1つとして挙げられたのかなと私は推測しているんですけども、もしこのテーマについてお話し合いができる機会があれば一緒に考えていきたいなと考えております。

もう1つ、地域活性部会では公園の活用と地域管理というキーワードを挙げられております。実は私ども行政としても公園の活用ということで、維持管理を市民の方、区民の方と一緒にやっていきたいと思いますというようなテーマを挙げて活動し始めたところでもございますので、このキーワードについても、さらに我々の活動もタイアップできて、さらにもっと推進できるような可能性があるのかなと感じております。

ということで、もう少しこのキーワードについて今後御説明いただいて、タイアップできれば、一緒に協働して生かしていただきたいなと考えております。ありがとうございます。

川田委員長 区民会議を検証していくことにもなりますので、そのときにまた、部会でもお呼びしてお話を伺うということは可能でしょうか。

道路公園センター所長 結構です。ぜひ参加したいと思っております。

川田委員長 ありがとうございます。それでは、テーマがどのように決まるかわかりませんが、そのときはよろしく願いいたします。

生涯学習支援課長 生涯学習支援課長、そして宮前市民館長を併任しております吉越と申します。よろしく願いいたします。着席してお話をさせていただきます。

今、委員の皆様のお話をお聞きしまして、やはり私ども、特に宮前市民館として日

ごろからいろいろな方、本当に多世代の方が利用される施設となっております。そのような中で、人材の活用というお話が各委員の皆さんからありました。その中でさらに、世代間の交流といった部分のキーワード、言葉とありますか。具体的には、さらにいろいろお話しいただきました、例えば寺子屋の事業ですとか、あるいはお子さんの学習の支援、あとは自然環境とか地域の産業を守るということで、農の振興、いろいろな部分で実は市民館は皆さんのお力をかりながら協力させていただいているところがございます。

私どもも若い、例えば子育て中のお母さん方、あるいはシニアの皆さん、そして、時には中学生、高校生なんかも利用しますので、そういった方たちの声を聞きますと、それぞれ皆さん、いろいろな潜在的な能力を持った方たちばかりなんです。それぞれ皆さん個性や特徴があります。なかなか人材が見つからない、見つからないと言いますけれども、実は宮前区というのは非常に人材の宝庫ではないかなと思っています。ただ、それをいかにして発掘というか、実はこういったことをやってみたいとか、そのように考えている方はたくさんいらっしゃると思うんですけれども、何かのきっかけづくりとありますか、トリガー、引き金になる部分があれば、どんどんどんどんそれが相乗効果になって、能力のある方たちが表に出て活躍をしていただけないかなと日ごろ感じております。市民館としても、あるいは生涯学習支援課長の立場としましても、その辺で何とか方法がないかなといろいろ考えたりしているところでございます。

今ここで委員の皆さんのお話をお聞きすることで、今後非常に大きなヒントになるのではないかなと考えておまして、ぜひとも今後ともこちらの会議に出席をさせていただきまして、皆さんの御意見を拝聴したいと考えております。よろしくお願いたします。

総務課長 総務課長の福嶺と申します。総務課は区役所の人事ですとか、庁舎管理ですとか、そういう業務をしております。きょうのチラシの1つにも出ております「まじわーる de トーク」が開催されるまじわーる宮前1階に、昨年の12月に宮前地区会館が新しくできました。それを所管している課が総務課でございます。そうした中で、主に馬絹地区の方々に御利用いただいているところですが、そこで地域コミュニティの強化ですとか、地域の拠点として、これからますます御利用いただければありがたいかなと思っています。

また、以前、地域振興課長をやっていたんですけれども、その中でも農業、宮前区は非常に農業が盛んな地域でございまして、後継者不足で農業が衰退しているような現状もありますので、皆さんおっしゃるとおり、農地は防災の拠点でもありますし、重要な農地を区民の皆様で守っていけるような方策を考えていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

保健福祉センター担当部長 地域みまもり支援センターの松浦でございます。着席してお話をさせていただきます。

前回の会議のときに、地域包括ケアシステムについてのお話で宮前区での取り組みを少しお話しさせていただきましたが、実は私は福祉関係の仕事をさせていただくのは初めてでございます、それまではどんなことをしていたかと申しますと、職種が薬剤師なものですから、病院で7年ほど勤めまして、その後、行政のほうに出てまいりました際には、区役所でいいますと衛生課になりますが、営業施設の許認可等を担っておりました。その後、感染症も担当したり、いろいろやってきたんですけれども、先ほど地域活性部会のお話で、商売をしている人とのつながりというようなお話があった中で1つ思ったことがございまして、いろいろな居場所づくり、カフェをやっていただきたいというようなところもあるんですけれども、既存の営業施設をぜひ活用していただけたらなということもありまして、飲食店のちょうどお客様がはけた2時とか3時とか、そのくらいの時間とか、営業前の時間とかを活用できないかなと、去年まで衛生行政をやっていた中で考えていたところがございます。また、組合等もございまして、そういったところの働きかけもできますし、また、飲食店だけに限らず、床屋さんとか美容院も衛生課が所管している許認可施設になります。美容師さんとかに髪の毛を切ってもらいながら、実はね…なんて、ちょっとしゃべってしまったりというようなところもあったりするかなというのもあるので、割と心を許してしまうような場所かなということもあり、何か活用ができないかなというふうに、去年までの仕事を振り返りますと、思っていたところがございます。

そちらの施設にとっても、逆にお客様がふえるきっかけになったり、本当に少ないお金でお茶を出したりとかということにもなって、営業にもプラスになることですので、そういった活用をしながら地域活性ができたらなと考えているところがございまして、地域みまもり支援センターとはちょっと違うんですけれども、思っていることを述べさせていただきます。

川田委員長 第5期の提案の中で、ほっとやすらぎステーションというのがございます。

その地域の地域包括支援センターの電話番号が入ったカードを今おっしゃったような美容院とか、クリーニング屋さんとか、人が多く出入りするところに置かせていただいているという提案を差し上げておりますので、ぜひそれを進めていただけたらありがたいなと思っております。ありがとうございました。

保健福祉センター所長 保健福祉センターの益子でございます。ことしから保健所は支所になってしまいましたけれども、保健所でずっと仕事をしてまいりました。

保健所は皆さんの健康を守る立場の公的な行政施設なんですけれども、小さいお子さんから高齢者までの皆さんの健康維持と医療支援を図ろうということで私どももいろいろやってきたんです。例えば公園体操とか食生活改善推進員、運動普及推進員を

育てて、地域で皆さんに運動を普及していこう、健康な食事をとってもらえるような普及啓発を図ろうとかということをやってきたんですけれども、昨今わかってきたことは、経済格差がイコール健康格差になってきているということで、本当に胸の痛い話だと思っていたところ、皆様方のきょうの御発言でも、子どもの貧困を何とかしなくてはということを考えてくださっていることはすごく心丈夫でしたし、また、空き家の活用とか地域の負の遺産をポジティブに変えていこうではないか。そして、人が集うということ。人間は社会動物なので、社会につながっていることがすなわち健康寿命の延伸につながるなど。女は健康寿命が過ぎてから13年も生きてしまう。最近のマスコミなんかを見ていますと、長生きしてしまったとか、長生きがハッピーではなくて、何でこんなに長生きするんだという時代になってきてしまったという悲しい記事もありますので、ピンピンコロリではありませんけれども、健康寿命が、すなわちその人の寿命になるように私どもも一生懸命取り組んでまいりますけれども、地域の皆さんが取り組んでくださっていることにすごく心丈夫なものを感じました。

私、きょうすごく感じ入ったんですけれども、地域の神社とか、古墳とかという話がありました。とんもり谷戸とか、そういう目に見える環境もすばらしいんですけれども、中村さんがおっしゃっていた伝統ですね。慣習を守っていくのはすごく大変なんだけれども、大切にしたいというお話とか、目に見えないソフトな文化というものが大切にされている。これこそ本当に宮前の魅力なのではないかなと思ったところでございます。

いろいろ教えていただきまして、本当にありがとうございました。

向丘出張所長 向丘出張所長の小林です。立ってしゃべると緊張してしまいますので、座らせていただきます。

先ほど滝本委員ですか、人とのつながり、地域に参加すること、つながることが、勉強も大事だけれども、人として育っていくんだというお話がございました。確かに自分も思い返してみると、子どものころ、地域の子ども会であったり、野球をやったり、お祭りに出ておみこしを担いだり、そういうことをしていたんですけれども、結婚して違うところに引っ越したことを契機に地域とのつながりが薄くなってしまっていて、非常に胸をつかれる思いがありました。向丘出張所は自治会との関係、いわば人とのつながりを考えていく部署ですから、地域の人たちを何とか巻き込んでいくような取り組みができるようになればいいのかな、何かヒントをいただければ今後やっていきたいなと思ったところです。

ありがとうございました。

区民サービス部長 区民サービス部長の小佐野と申します。私も座ってしゃべらせていただきます。

私の仕事は区民サービス部長ということで、区民課や保険年金課の統轄の他に、サ

ービス向上委員会の委員長も務めさせていただいて、身近で皆さんが来やすいような区役所づくりを目指しているところです。また、ここ何年かは振興系のお仕事をさせていただきまして、いろいろと川崎市のことをPRさせていただいた中で今、委員の皆様のお話を聞いた中で感じたことをお話しさせていただきます。

いろいろと皆さんの御意見があった中で神社のお祭りですとか、そういったものが宮前区にはいっぱいあって、十分な観光資源になるんですけども、皆さん、宮前区に住んでいてもそれがどういうものかわからないというような御意見も伺いまして、私もPRしていく中で、皆さんが全然知らないとか、広報されていないというものも結構あるんですね。ですから、その辺をぜひPRして、宮前区の魅力をどんどん伝えていけばまた、活性化した宮前区というまちづくりをしていくことができるのかなと感じまして、これはぜひ区役所も一緒になってそういったPRをさせていただければなという感想を持ちました。

川田委員長 堤副区長、司会進行していただいておりますけれども、漏れ聞いた話によりますと地域活動を非常にやっていらっしゃるということですので、どうぞその視点からでもお話しいただけますでしょうか。

司会（堤） 私の地域活動は、唯一自治会の夕涼み会で焼き鳥を焼くという……。もうちょっと若いときは焼きそばをパワフルに、24人前か何かを3人でかきまぜて焼いていたんですが、それだけでも地域ですれ違ふときに挨拶をする人がふえる。朝、出勤するときにリタイアされた老紳士がワンちゃんを連れて、いってらっしゃいと。何かきょうはいい気分で行かされる。そういう意味で本当に実感しております。

きょう皆さんの話を大変興味深く聞かせていただきました。何人かの方がおっしゃっていましたが、両部会が共通のテーマを別の切り口から扱っているのではないかと。今ちょっとお話ししたようなことも踏まえまして、人と人とのつながりを別の角度から眺められているのかなと思いました。例えば神社のお話、自治会のお話、お祭りというのが出てきました。私もお祭りだけなんですけれども、祭りを支えている人のお話をいただきました。そこを訪ねてくる人、お祭りはイベント施設ではなく、人のつながりなんだな。また、地域福祉部会はもうまさに人ですよ。独居の方をどうやって連れ出そうかと、頭を悩ませる人がいる、独居の人もある、この人と人とのつながりをまさに考えておられる。なるほど、そうだなと思いました。

もう1つ、なぜこの対策をやるんだ、この取り組みをやるんだというお話がございました。そこも本当に共感いたしました。私、前職が向丘出張所長ですので、町会の活動であるとか、スポーツも、青少年もそうですけれども、人と人とのつながりのためにこんなに活動している方がいる。本当に人と人とのつながりというのは大切だと実感いたしました。その経験からしますと、何のためにというところは、まずは顔の見える関係づくり。朝はおはよう、昼はこんにちは、夜はこんばんはから始まって、

それから安全安心、それと、みんなが健康に地域で健やかに暮らしていくというようなところを見つめてやっていくのが大切なのかな。皆さんのお話を伺っていて、私はきょうそのように感じました。ありがとうございます。

川田委員長 それでは、区长、何か一言、よろしく願いいたします。

区长 済みません。ここでまとめのようなことを言わなくてはいけないのかもしれませんが、ちょっと細かいことから言わせていただきます。

実は私はみやまえ子育て応援だん、若いお母さんたちが子育てしやすいまちに向けて、少し自分たちで課題を解決したいというような未来塾というのを昨年度開いたんです。その中で、自分たちで今年度から活動を始めておられるんですが、このシールを例えばお店なんかには張ってもらうんです。私たちのお店はベビーカーで入ってきてもいいですよというようなことをステッカーに書いてもらったり、あるいは車のディーラーなんかの入り口に、赤ちゃんのおむつがえ、オーケーですよ、中にベビールームがありますとか、美容院なんかで子連れで来られるのもオーケーです、少しの間、ほかの人が見ながら御自分の髪の毛を切ることができますよ。それぞれのお店を回って、今現在で何か子育てに対して応援できることを聞いて回って、お母さんたちがその情報を集約して、フェイスブックで発信するような取り組みを始めているんです。宮前って、子育て世代が集まってくるまちなので、何かしらみんなが応援しているよみたいな雰囲気を出してあげて、外に向けて発信していけたらなということで、この区民会議の皆様にもいつかその未来塾のメンバーと一緒に集まれる機会をつくりたいななんて思いながら聞いておりました。

というのは、子どもたちが育っていき、若い世代の皆さんが苦労しながら子どもを育て、そのうちに地域の主要な担い手として定着してくるまでには、さっき葛西さんのほうからだったかな。子どものうちにちょっぴり参加できる場があると、その後は地域に入ってきてくれるので、まさに子どもを育てているお母さんたちもそうだと思うんです。子どもが熱を出したりして、確実には出られないんですよ。仕事をするにしても、きょうは急にドタキャンしなくてはみたいなことがあって、はっきり言って労働力としてはなかなか当てにならないかもしれないけれども、その時期にそのようなことを遠慮しないでちょこちょこ出ていけて、何か人のお役に立てる場があれば、まさにそこから自分の経験なり、血になり肉になって、将来さまざまな場面で活躍ができる方たちがまさに今、育ちつつあるなと思っているところです。だから、そういうことを区民会議の皆様が思われていることとリンクできるなとか、連携できるなというふうに思っていて、万全でなくても社会に貢献できるまちをつくっていきたいな。そういう意味では、さっき佐藤部会長からもありましたけれども、地域で地域の役に立てるコミュニティビジネスみたいな、お金にはならなくても、自分の持ち出しばかりでなくて、社会に貢献できるようなことができたらいいななんて思いながら

聞きました。

先ほど砂川委員がおっしゃられた馬絹古墳の横の街灯、何とかしたいなと思いました。私も実はきのう馬絹古墳に行ったんです。確かに夜は暗いかもしれませんので、市としてはE S C O事業も始めていますので、何かしら防犯に向けて検討できればなんていうことは思いました。よろしくをお願いします。

川田委員長 今回はちょっとお時間があったということもあるんですけども、これから協働して宮前区のことを進めていくということから考えますと、やはりお話を聞いていただくだけではなくて、宮前区役所ではこういう動きをしているという情報をいただきまして、本当に協力者として、協働していくつながりを持っていきたいなと思ひまして、これからもまた、機会がありましたら……。本当は毎回のようにお話を伺いたいなと思っております。本当にありがとうございました。

また、本日、参与の方、渡辺参与、矢沢参与がお見えになっております。長い時間、私たちの話を聞いていただいてありがとうございました。ここで、参与から一言ずつお話をお願いいたします。渡辺参与よりお願いいたします。

渡辺参与 皆さん、こんばんは。きょうはお話を聞かせていただいてありがとうございました。また、区役所の皆さんからもお話、いろいろありがとうございました。

私がきょう気になったこと、幾つか出ましたけれども、2つの部会が多分この議論を進めていくと、最後は集約されていくのかなというのは私も感じました。それとは別に幾つか細かいところ、ああ、そうだそうだと思ったところは、今、区長からもありましたけれども、地域経済。産業振興のお話がありましたけれども、やっぱり地域経済が活性化するのがいいのだろうなと思うんです。別にそれは大人でなくても、例えばお祭りで子どもがお店屋さんごっこをする、それはもちろん自分の売り上げになりますから、子どもは頑張りますから、そういう小さな積み上げでまちの中の経済を活性化していけたらいいなと思います。

もう1つは、さっき区長に言われてしまったんですけども、馬絹古墳。昔、「おしいれのぼうけん」とかという絵本がありませんでしたか。私、馬絹古墳の暗やみも大事かなと思うんですけども、やっぱり危険ですから、E S C O事業が始まっております。私、有馬1丁目に住んでいるんですけども、一番外れにいるもので、外れだからうちのほうから始まったのかなと思っているんですが、LEDが二、三日前についたんですね。夜、帰ってきたら、何かきょうは道が明るいなと思って、よく見たらLEDだ、ああ、E S C O事業がついたんだと思って。ですから、これから地域の中でも始まっていくと思いますので、暗やみは怖くなくなります。

矢沢委員 皆さん、こんばんは。きょうは本当に貴重なお話を、しかも、皆さん熱心な議論をしていただきまして、私自身もメモをとりながら聞いていたんですけども、メモをとった部分、注目した部分を少し話させていただきたいので、ちょっと座らせて

いただきます。

幾つかありまして、まず、宮前区はお祭りが非常に多くて、神社の例大祭が今まさにシーズンでして、今週10月の頭も菅生神社のお祭りで、私も初山獅子舞の後継者の1人ですので、笛を吹いたり、唄も歌ってきたんですけども、馬絹も土橋も含めて数々の神社の例大祭等々あるんですけども、中身がなかなか伝わってこないというような御指摘があったかと思います。まさにその点、あるのかなと思っていました。ただ、菅生神社の例をとってしまうと恐縮なんですけど、だんだん情報の発信の仕方が変わってきたなという感じがしています。実行委員会的な組織の中に若い世代の方々が入ってくると、神社のお祭りの発信の仕方が変わってくる。フェイスブックを活用するのはもちろんなんですけれども、例えば行政の方々が一生懸命発信してくださるのは公平中立に、なるべく均等な形で出してくるので、また、リアリティといった面では、実際中に入ってみこしを担いでいる若い方々とかテキ屋をやっている人たち、今、焼けましたみたいなリアルタイムな発信みたいなものがだんだん出てきた。そういった神社の例大祭、お祭りの中でフェイスブックやツイッター等々を活用したものを若い世代の方々が実行委員の中で使ってくる。そうすると、それが1つのおもしろい情報発信になってくる。それをこの区民会議の中で、これは今思いついたジャストアイデアなんですけれども、シェア祭りみたいなものを作って、皆さん、ここにいらっしゃる委員の方々、皆さん地域の顔の方ですから。そういった方々が一斉に地域のものをシェアしてみるとか、それだけでもかなりの情報発信になるのではないかなと思います。しかも、お金がかからない形で。そういったものも十分使えるのではないかなと思います。

馬絹古墳の話がよく出ました。馬絹古墳、もちろん私も行ったことがありますし、大國魂神社がある府中市に熊野神社古墳というのがあるんですね。熊野神社古墳というのは作り方が馬絹神社の馬絹古墳とそっくりなんです。視察もしてきましたけれども、馬絹古墳の活用の仕方と全く違うところは、熊野神社古墳のほうは、同じ作り方をしているんですけども、実物のレプリカがあるんです。だから、ヘルメットをかぶって、実際に古墳の中に入れるんです。ヘルメットをかぶって、真っ暗な中、ライトをかけて古墳の中を歩くんです。これが実際の古墳だったんだというのがわかるんです。そういった体験ができるものが府中市にはある。府中市には国の史跡もあるので、そういった史跡を十分に活用したまちづくりを全面的に推進しているまちなので、先進的なので私は視察に行ってきたんですけども、馬絹古墳という部分をとっても、そういった活用の仕方がまちによって全然違う。そこはすごく参考になると思います。そこは行政の方々と皆さんとでうまく連携しながら、進めていけるのではないかなと思います。川崎市にも国の史跡はあります。橘樹官衙遺跡群が十分にありますが、府中市と比べてまだまだ活用の仕方が甘いのかなと私は思っているの、驚

ヶ峰遺跡もこの間、川崎市の重要歴史記念物になりました。史跡も非常に宝庫ですから、そういったものも活用できるのかなと思います。

さらに、農地の話が出ました。農地は、私、聞いていて、毎回テーマに出してくれて本当ありがたいな。農家の息子から言うと思うんですけども、農地を守る、農地を保全するという観点の中では、やはり当事者の方々の問題意識をもう少し聞いていただくと、部会の中で活性化されるのではないかなと思っているんです。皆さんがやっていくのはもちろん大事なんですけれども、実際に所有者として農地を持っていて、そこで農業をやっている方々がどのように思っているか、どのように農地を守っていきたく思っているか、例えば部会の中に呼んで話を聞いてみるとか、そういったものも非常に参考になるのかなと思います。非常にさまざまな御意見を持っていますので、川崎市でも農業振興計画を策定して、例えば生産緑地をさらにふやしていきましょう、認定農業者をどんどんふやしていきましょう。認定農業者をふやすというのは農業所得をふやすということですから、そういった計画を立てて、一生懸命推進してくださっていますので、そういった計画を行政の側からレクチャーいただく。部会の中で呼んで、川崎市はどのような動きをやっているんだということを聞いても、またそれはそれで、非常に皆様の知識の土台になるのかなと思いました。

空き家というのが両方の部会で共通して出てきました。空き家というのは、私、この間、弁護士会の方と話をしたんですけども、活用の前段階で、行政の方々からの意見もありましたけれども、非常に難しい話がすごくあります。そもそも空き家って誰のものなのだと。高齢者の方が貸している土地に高齢者の方が1人で住んでいる。その高齢者の方が亡くなった場合、その中のものはどうするんだ、権利関係はどうするんだ、遺産の相続はどうするんだ等々、活用する以前に入り込んでいいのかとか、さわっていいのか、この物はどうするんだ、ソファはどうするんだ、たんすはどうするんだ、そういったさまざまな諸課題がかなり転がっていますので、そういう土台の部分をしっかり、多分まち局だと思いますけれども、行政側もしっかりと解決しながら、次のステップが活用だと思いますので、皆さんと土台づくりをしていったほうがいいのかと思いました。

非常に多岐にわたっていて、私もメモをとるのが大変だったんですけども、意見がたくさん出て勉強になりましたので、きょうはありがとうございました。

川田委員長 両参与の方々の御意見と見解を伺って、本当に参考になりました。ありがとうございました。

時間では8時までということなんですけど、どういうわけか、6期は8時までということが守られたことが今までございません。それよりも、皆さん方の御意見を伺いたいといった思いが強いからだと思います。

(4)その他

川田委員長 ここで、切りのいいところで、堤副区長にお戻しいたします。ありがとうございました。

司会（堤） 川田委員長、どうもありがとうございました。本日も長時間にわたり、活発に御議論いただきました。また、職員にも発言の機会を与えていただきましてありがとうございました。

この後、事務連絡等がございます。企画課の小西にかかわらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

3 その他の連絡事項

司会（堤）

事務局（小西） では、事務連絡に移りたいと思います。

まず、委員の皆さんからいただいたチラシをいろいろと配付させていただいております。一番上から見ていきますと、宮前区社会福祉大会というチラシがあるかと思えます。こちらのチラシについて、老門（泰）委員から御説明をお願いいたします。

老門（泰）委員 宮前区社会福祉大会を11月20日、ほとんど宮前市民館全館を使わせていただいて開催いたします。今まで社会福祉大会って、どちらかというところ、表彰式だけ、あるいは表彰式に映画会ぐらいだったんですけども、ことしから実行委員をつくって、大々的に福祉に絡むあらゆるアイテムを網羅していこうということで、この区民会議でも話題になるカフェに関してもいろいろ内容がございます。この裏に全てのプログラムが書いてございますので、ぜひとも20日をあけていただいて、ちょっとでもお顔出しいただければと思います。よろしく申し上げます。

事務局（小西） 続いて、まじわーる de トークと書いてあるチラシがございます。こちらについては川田委員長から御説明をお願いいたします。

川田委員長 これを主催しているのは、きまっしーという障害者の生活支援センターなんですね。ぜひ話をしてほしいということで、私、伺ってまいりました。先ほど行った宮前連絡所ですか。今はまじわーるですけども、そちらを拠点にしていまして、あそこの管理をしているのがみのり会という障害者施設の法人でございます。高齢者などは地域包括支援センターによって地域に出ていっておりますので、高齢者の情報というのは伝わってくるんですけども、障害者は生活支援センターと個人との契約によってですので、地域のほうでどういったことが行われているか、余りわかっていないというのがあるんです。ここも生活支援センターなんですけれども、契約によって動くところではなくて、地域交流を主にしてやっていく、高齢者も障害者も一緒になって集まる場をつくっていきたいということで、第1回だそうです。10月15日です

ね。馬絹の交差点のところにありますまじわーるで行います。もちろん障害者の方もいらっしやいますし、この日はたまたま馬絹のお祭りの日ということで、まじわーるの端のほう、社務所ですか。受付か何かができるので、ちょっとごちゃごちゃするかもしれませんがけれども、先ほど、第1回、第2回、第3回とチラシができていて、それも見せていただいたんですけれども、ここを地域の拠点として、障害者、健常者が交わる場所とするということで、これからどんどんやっていくそうですので、ぜひ皆さん方、お時間がありましたら足を運んでくださいということでした。

事務局（小西） では次、黄色のチラシ、宮前親子学級と書いてあるチラシについて葛西委員からお願いします。

葛西委員 もう学級は始まっているんですけれども、私たちの活動についてちょっとお話しさせていただきたいと思って、チラシを載せさせていただきました。

裏面を見ていただくとわかるんですけれども、10月6日のきょうの学級はもう終わっています。全般は子どもの育ち、募集は大体1歳半ぐらいから3歳までの第1子を持つ親子という形で、今17組の方が見えています。前半はなんですけれども、子どもたちがどのように育つかという勉強をし、後半についてはお母さん自身が自分の足元を見詰めるというのは変な言い方なんですけれども、自分自身について考えましょうという部分。そして、先ほど区長さんからお話があったんですけれども、担い手というような考え方もあって、地域に一步出て、そして地域の中でつながっていこうよというようなことを大切に思っていますので、13回目に「つながっていく大切さ」というような話で大体まとまって行って、最終的にはグループ化するという形にしているんですね。その人たちのグループになったりもするんですけれども、そのグループの卒業生の中から企画委員を募ってまして、今現在その企画委員が大体20名、保育者が13名で運営しています。企画委員も、保育者も、ほぼ親子学級の卒業生なんです。実はこの親子学級というのは市民館の主催で二十何年前からずっとやっていたんですけれども、途中でなくなってしまいましたので、市民自主学級として10年間やっていました。ですけれども、やっとことし、チラシの上でわかると思うんですけれども、家庭地域教育学級に入れていただけたんですね。それでどうにか、少し仕事が楽になったかなという感じがするんです。

先ほども地域の担い手という話を区長さんからお話しになったんですけれども、卒業生の人たち、私自身が25年前の卒業生で、かくいう滝本委員も親子学級の卒業生です。親子学級を卒業した後に企画委員として残っていただいている方もかなりいるんですけれども、大体の方は町内会で子ども会を始めたりとか、PTAに参加したりとか、町内会から青少年委員をやっている方もいらっしやいますし、PTAから区P、市Pという活動に広がっている人もいます。地域団体に行って活動している人もいますので、子育てグループに入ったりとか、私もカンガルーに入っているんですけれども

も、そのようにだんだん地域の中に若い人たちが入っていく第一歩の学習として毎年やっている学習なんですね。

ただ、吉越館長さん、毎年、来年、続くかなという不安を感じていますので、済みません、そういう学級なんです。とにかく若い人たち、子どもたちをちゃんと育ててほしいというだけではなく、この人たちを支援するだけではなくて、自分たちでどうにかするんだよということを今教えているというか、学んでもらっている学級なので、ずっと続けていきたいなと思っています。

事務局（小西） 続きます、虹色おはなしの会と書いてあるチラシ、2枚ございますけれども、こちらは本日欠席されている中里部会長からのものであります。イベントの告知になっていますので、皆様御確認ください。

次、緑色の紙ともう1つ、黄色の紙がありますけれども、こちらは市民館からのお知らせになっています。1つが地域の寺子屋コーディネーター養成講座のチラシと、公園でコミュニティづくり体験講座のチラシになっております。こちらも後ほど御確認ください。

最後に、A3のホチキスどめの資料で、先ほど話題にも上がりましたがけれども、宮前区内認知症カフェ等のリストを配らせていただいております。こちらについては地域みまもり支援センターの藤沖課長から説明させていただきます。お願いします。

保健福祉センター担当課長 それでは、御説明させていただきます。

A3の紙なんですけれども、これは地域の方々から、どこにどんな認知症カフェがあるのかというお声が大変多くなってきているということで、地域包括支援センターさんが調べてくださったものを区でまとめたものでございます。本日の区民会議という趣旨で申し上げますと、本来でしたら地域包括支援センターの方にお越しいただくべきところ、私が代理で御説明させていただいております。川田委員長より、ぜひこのリストを皆さんに情報提供してほしいということでお配りしましたが、ごらんいただきますとおわかりになりますように、個人宅の電話番号も載っております。川崎市の地域包括ケアシステムポータルサイトにも載せてあるんですけれども、リストそのものは電子媒体に載せておりません。必要な方にお配りしますという形で広報させていただいておりますので、取り扱いには御注意いただきたいということと、これが必要だという方は、ぜひ地域みまもり支援センターの中の地域サポート担当に御一報いただければ紙をお届けしたり、お送りしたりすることができますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局（小西） 配付物については以上になります。

次に、次回以降の日程についてお話しさせていただきます。次回の各部会の日程なんですけれども、もう既に何度かお伝えはしておりますが、第3回地域福祉部会が10月24日（月）、第3回地域活性部会が10月27日（木）、いずれも18時から区役所第1

会議室で予定をしております。正式な通知はまた後ほど送らせていただきます。

次に、まだかなり先の話ですけれども、第4回全体会は1月13日（金）を今のところ予定しております。時間と場所等については調整中ですので、これもまた、後日改めて御連絡させていただきます。

また、区民会議交流会が2月6日（月）に18時からエポックなかほらで行われます。これも正式な通知はまた後ほど送らせていただくことになります。

皆様にお配りしているものでもう1つ、マイナンバーの制度導入に伴う個人番号の提供のお願いという別のクリップでとめてあるものが、委員の皆様にはお配りしてあります。区民会議に御出席いただいた際に報酬をお支払いしておりますが、所得税の源泉徴収の事務に利用するために個人番号をお届けいただく必要がございます。資料の中にも書いてありますが、番号を確認するために個人番号カード、いわゆるマイナンバーカードか、通知カード。これは昨年10月から順次各家庭に送られているマイナンバーが書いてあるカードです。もしくは個人番号が記載された住民票の写し、住民票の記載事項証明書の3点のいずれかを次回の部会など次回出席された会議の際にお持ちいただければと思います。個人番号の取り扱いですけれども、事務局の中で個人番号取扱担当者という職員を定めておまして、その職員のみが取り扱うことになっています。お持ちいただいた個人番号カードなどにつきましてはお預かりすることはいたしませんで、その場で番号のみを控えさせていただきます。その後、速やかにシステムに登録させていただくことになります。番号を控えたメモにつきましては、その登録が終わり次第、速やかに破棄させていただきます。情報については慎重に取り扱うようにいたしますので、何とぞよろしくお願いいたします。

あと、皆様の机に名刺をお配りしています。区民会議委員の名刺を作成させていただきました。今後、現地調査とか、ヒアリングとか、いろいろなところに出向くときに必要になることもあるかと思っております。そのようなときにぜひお使いください。なくなった場合には、事務局に御連絡いただければ新たに作成したいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。最後に、附箋をお配りさせていただきました。川崎市で新たに作成したブランドメッセージとロゴマークを広く知らしめるために、このような附箋を作成しております。皆様御自由にお使いいただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、これもちまして、第3回の会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

午後8時24分閉会